

■■=====2014/1/27 発行=====■■

本号の主な内容

【事務局より】

【2013年度調査へのご協力の御礼および進捗状況のご報告】

【Dr.伊藤のすこやかコラム：お薬の広告】

【事務局より】

平素は「東京大学ワーク・ライフ・バランスと健康に関する調査」にご協力いただきありがとうございます。事務局の時田です。

このところ降雪の予報が何度かでしたが、積雪まではいたりませんでした。子どもの頃雪は楽しみでしたが、大人になると予報を見ながら明日の朝のことを考えてしまいます。そういう私の横で、子は薄着で走り回っています。元気な風の子です。

今回のメルマガの内容は、2013年度調査のご報告ならびに Dr.伊藤のすこやかコラム「薬の広告」です。なおリレーコラムは、今月号はお休みをいただきました。

【2013年度調査へのご協力の御礼および進捗状況のご報告】

この度の2013年度 東京大学ワーク・ライフ・バランスと健康に関する調査にご協力いただき誠にありがとうございました。

現在皆様からいただきましたご回答の集計を行っています。集計終了後、個別(お父様・お母さま・お子様)のフィード・バック・レポートを3月下旬ごろに発送する予定です。あわせて謝礼をお送りさせていただきます。申し訳ございませんが、今しばらくお待ちいただきますようお願い申し上げます(住所変更がございましたら、お手数ですが事務局までご連絡いただけますと幸いです)。

現在お父様から175通、お母様から237通、お子様241通のご回答をいただいております(今後の過程で数字が増減する可能性がございます)。

本調査は、夫(父親)、妻(母親)の調査に加えて子どもの調査項目も含まれている点が大きな特徴です。父親-母親-子どもの3者関係をワーク・ライフ・バランスに注目しながら追跡調査している研究は世界でもほとんどなく、各国からその結果が注目されています(代表研究者 島津)。

今後、本調査のデータから、様々な報告が出される予定です。本メルマガでも皆様に役立つ情報を提供できればと思います。

【Dr. 伊藤のすこやかコラム：薬の広告】(伊藤 淳)

昨年、高血圧のお薬「ディオバン」をめぐる、その効果を検証する研究データが改ざんされていたというニュースがありました。この薬を製造・販売していた製薬会社は「改ざんされたデータを使って『とても効果があります』という宣伝を行ったのは、法律違反である」ということで先日、厚生労働省から訴えられました。

ディオバンは宣伝がとても上手だったので、多くの医師が患者さんに使っていました。幸いだったのは、この薬は「宣伝されているほど効かない」だけで、大きな副作用がなかったことです。製薬会社のセールスから「〇〇大学で行われた研究で実証されました！」「海外の医学雑誌××にも掲載された、世界が認めた治療薬です！」という売り文句に加えて、実際の論文なども見せられたらほとんどの医師は信じるしかありません。でも今回の事件で、たとえ有名な医学雑誌に載った論文でも「何か裏があるかも」と批判的に読むこと、情報を鵜呑みにしないことの大事さを医師に伝えた出来事でもあったと思います。

製薬会社の宣伝は、ディオバンのように医師向けにしかされないものもありますが、一方で一般人向けの宣伝もあります。最近見る CM で、一部の医師の間でちょっと話題になっているものがあります。

その CM は母親たちがインフルエンザについて話し合っている設定で、「早く病院に行くことが大事」「熱を早く下げてあげたいよね」といった会話に続き、タレントが「インフルエンザ治療薬には内服薬、吸入薬の他に点滴薬もある。お医者さんに相談してみよう！」と言うものです。

一般の方から見ると普通の CM かもしれませんが、医師の目で見るとツッコミどころ満載なのです。

・「早期受診が大事」

→早く病院に来たって診断できません。発症から早くても半日以上経過しないと、検査キットは陽性になりません。

・「熱を早く下げてあげたい」

→気持ちは分かりますが、何もしなければ約 5 日続く有熱期間をインフルエンザ治療薬は 4 日程度にするという差しかありません。1 日短くなることをどれほど重要視するか、人によって違うと思います。(入試が近い、修学旅行直前、などの状況は早く熱を下げる価値が高くなりますね)

→自分の体が抗体を作る時に一緒に発熱性物質をも作るから発熱するのであって、ウイルスが熱を出している訳ではありません。しかもウイルスは高熱に耐えられないので(熱でウイルスは弱まる)、発熱は必要な防御反応です。

